

福電協會報

第90号



一般社団法人 福岡電業協会
2020.1

福電協会報

第90号

◀ もくじ ▶

会長挨拶	西村 松次	1
祝 辞	国土交通省九州地方整備局 局長 村山 一弥	2
	福岡県知事 小川 洋	3
	福岡市長 高島宗一郎	4
2020年新年賀詞交歓会		5
施設紹介		
	福岡市総合体育館の紹介	6
技術レポート		
	設備工事業における3D計測の活用	10
シリーズ郷土	糸 島 市	12
写真コンクール(第39回)		14
シリーズ職場訪問		
	西鉄電設工業株式会社	19
横顔紹介と随筆		20
事業報告		
	令和元年度「技術見学会」を開催	25
	技術講習会の実施	26
	令和元年度「福岡県総合防災訓練」参加	27
	「実技講習会」を開催	28
	国交省・九地整との定例懇談会開催	29
	高校生「現場見学会・意見交換会」を開催	30
	第27回福電協ボウリング大会	31
	福電協ゴルフ大会(90・91回)	32
委員会だより		
	総務委員会	34
	広報委員会	34
	技術委員会	35
	事業委員会	35
協会組織		36
会員名簿		37
役員名簿		40

表紙のことば

本施設は、アイランドパークに福岡市の新たなスポーツ施設として国際大会や国内の大規模スポーツ大会を「見る」「楽しむ」ことができる拠点として整備されました。

構造的な課題改善の 一層の推進

一般社団法人 福岡電業協会

会長 西村 松 次



新年、明けましておめでとうございます。

皆様方におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

福岡電業協会は、日本電設工業協会と歩調を合わせ、電気工事業界の健全な進歩発展と、社会公共の福祉増進に寄与してまいります。

我が国の経済状況は、企業の収益・雇用環境が改善される中で、貿易摩擦や通商問題の拡大、消費税増税に伴う消費の減速など懸念要因の多い昨年でした。

一方で「ラグビーワールドカップ開催」「福岡ソフトバンクの日本シリーズ3年連覇」など明るい話題も数多くありました。

建設業界においては、大型案件が施工中のなかで、資材価格の値上がりや労務費の上昇など課題も多く、人手不足による工事の遅れなどが懸念されております。

今年以降も、福岡地区においては「天神ビックバン」「博多コネクティッド」「ウォーターフロントネクスト」などの大型再開発が計画されており、建設業界はもちろん我々電気業界もしばらく忙しい日々が続くものと思われます。

又、昨年も災害の多い年であり、10月の仙台での日本電設工業協会主催全国会員大会後の台風19号での大雨災害や、台風15号影響での停電災害など、電気インフラに係る我々にとって身近な問題が数多く起きた年でありました。

最近の災害は想定外の被害が多く、災害発生後の

自衛対策についても構築する必要があると感じています。

建設業界をはじめ、電気業界の今年の最大の課題はやはり「人材の確保・育成」であり、「働き方改革」であります。

担い手の確保には働きやすく魅力ある職場環境が不可欠であります。

現場を担う技能労働者の高齢化や若年層の減少といった構造的な課題の改善を一層進める為の「建設キャリアアップシステム」の推進をはじめ、福電協では担い手の確保・育成に向けた取り組みとして、毎年開催しております「高校生の現場見学会・意見交換会」の開催、高校に出向き出前授業を行う「学校キャラバン」などへの参加も継続して行います。

福岡電業協会は昭和45年8月設立以来、今年の8月1日には50周年を迎えます。

50周年の記念行事として前日の7月31日には記念式典の計画も進めており、記念誌発刊の準備も進めております。

会員各位のご協力も併せてお願いしておきます。

今年も「夢と生きがいのある電設業界」を目指し、新アクションプランの重点目標を着実に実現するため、正会員・賛助会員のみならず、関係する皆様と連携し、電設業界の成長・発展になるよう努力していく所存であります。

最後に今年が皆様方にとって最良の年となり、お互いに実り多き一年になりますよう祈念申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

年 頭 挨拶

国土交通省九州地方整備局

局長 村 山 一 弥



年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

一般社団法人福岡電業協会の皆様には、平素より国土交通行政の推進にご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

九州は、地形、気象などの自然条件から災害が発生しやすく、2016年の熊本地震、2017年の九州北部豪雨、2018年の西日本豪雨、昨年の佐賀県を中心とした豪雨災害と毎年のように大規模災害に見舞われており、さらに、2018年度から桜島や阿蘇山をはじめとする管内の活火山の活動も活発な状況です。

九州地方整備局では、これらの災害の復旧・復興に全力で取り組んでいます。

熊本地震の対応では、2017年に長陽大橋ルート（村道栃の木～立野線）を応急復旧しました。また、昨年には俵山トンネルルートを全線開通させるとともに、来年度の開通を目指し、国道57号北側復旧ルート及び国道325号阿蘇大橋の復旧工事を全面展開しています。

2017年7月の九州北部豪雨により甚大な被害が発生した福岡県朝倉市では、国が権限代行により赤谷川の再度災害の防止・軽減を目的に緊急的・集中的に治水機能を強化する改良復旧工事を河川事業と砂防事業が連携しながら実施しており、河川事業は2021年度、砂防事業は2022年度の完成を予定しております。

近年は全国的にも大規模災害が多発しており、昨年は台風15号で多くの電柱が倒壊し、千葉県を中心とした停電は長期間続き、国民の生活に大きな影響

を及ぼしました。ライフラインの重要性を再認識するとともに、復旧にあたっては電気工事業のみならず、まから全面的な協力をいただきました。

このような大規模災害時、防災拠点となる官庁施設には、電気等のインフラ途絶時にも庁舎機能を確保し、円滑な災害応急対策活動を行うことが求められます。このため営繕事業では「防災・減災の推進」を重点的に取り組んでいます。

また、気候変動等に伴う水害の頻発・激甚化を踏まえ、地球温暖化対策を推進し実行するため、LED照明器具の普及、電力使用量削減等の二酸化炭素排出量削減対策にも取り組んでいるところです。

地域の担い手・守り手としての役割を担う建設業の生産性向上と働き方改革の推進に資するため、生産性向上については、BIM/CIMの活用をはじめとするi-Constructionの取り組みを順次拡大しているところです。また、週休二日促進工事の実施や、施工時期の平準化等により、働き方改革を推進しています。昨年6月に成立した新・担い手3法の理念を踏まえ、建設産業が、新3K（給与が良い、休日が取れる、希望が持てる）の業界となるよう、九州各県および市町村と連携して取り組みを進めていきます。

今後も電気工事業を含む建設産業の皆様とともに、九州をより活力ある、安全で安心な地域とするべく社会資本整備、国土強靱化に取り組んで参ります。

本年が皆様にとりまして、実り多い年になりますことを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

年 頭 所 感

福岡県知事

小 川 洋



新年あけましておめでとうございます。一般社団法人福岡電業協会の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日頃から電気設備工事の安全施工に向け、技術力や保安意識の向上にご尽力いただき、厚くお礼を申し上げます。

昨年は「令和」という新しい時代が始まりました。

そして、スポーツで大いに盛り上がった年でした。アジア初のラグビーワールドカップ日本大会は大成。日本代表チームの活躍で、日本中が「ONE TEAM」になりました。

一方で、大雨、台風による災害が全国各地で発生し、本県では3年連続の災害となりました。被災地の復旧・復興に全力をあげてまいります。

私たちは、今、①急速に進む少子高齢化、人口減少、②AI、IoTなど最新技術を駆使した「第4次産業革命」の進展、③「人生100年時代」の到来、この三つの大きな変化に直面しています。

今年は、子孫繁栄の象徴「子」年^こで、種が新たに芽生え、育ち始める年でもあります。

いよいよ、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。

この新しい年、この大きな変化をしっかり受け止め、福岡県のさらなる前進、発展のため、全力を尽くしてまいります。

その基本となるのが地方創生です。誰もが住み慣れたところで「働く」、長く元気に「暮らす」、安心して子どもを産み「育てる」ことができる地域社会をつくっていきます。

第一に、「働く」です。

「魅力ある職場」を一つでも多くつくるため、県経済発展の原動力である中小企業に対する、きめ細かな支援、事業承継に取り組みます。

引き続き、自動車、水素エネルギー、バイオ、

IoT、航空機など成長産業を育成します。

国から全国7つの特区の中で最高評価を受けた「グリーンアジア国際戦略総合特区」では、一つでも多くの事業化を実現します。

加えて、多くの分野において、AI、IoTなどの導入を進め、特に、「中小企業の生産性向上」、「スマート農林水産業」を加速していきます。

4月導入の宿泊税を使って、県全体の観光の底上げを図るとともに、欧米豪からの誘客を増やしてまいります。

第二に、「暮らす」です。

「スポーツ立県福岡」を目指し、環境整備、選手育成、国際交流に力を入れます。あわせて、「ふくおか健康づくり県民運動」を進めていきます。

社会のあらゆる分野で、女性がいいきと活躍する「女性活躍先進県」を目指すと同時に、「70歳現役社会づくり」を推進していきます。

これらを通じて、「100年グッドライフ福岡県」を目指します。

第三に、「育てる」です。

出会い、結婚、出産、子育て、仕事と、各ライフステージを切れ目なく支援し、県民の皆さまの結婚や子育ての希望を叶え、少子化を食い止めてまいります。

また、子どもの貧困対策や児童虐待防止に取り組んでまいります。

このようにして、福岡県、そして、九州から、この日本の国を元気にしていきます。

電気設備工事に携わる皆さまにおかれましては、時代が求める新しい知識と技術の習得に努められ、地域の皆さまへの安全・安心を引き続きご提供いただきますようお願いいたします。

新年が皆さまにとって、素晴らしい一年となりますよう心からお祈りいたします。

年 頭 挨 拶

福岡市長

高 島 宗一郎



新年あけましておめでとうございます。

一般社団法人福岡電業協会の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

福岡市では、多くの市民の皆様とともに策定した「福岡市総合計画」において、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を創り出すことを都市経営の基本戦略として掲げ、数々のチャレンジを行ってきました。その結果、人口は将来推計を上回る勢いで増加し159万人を超え、観光客は年間2,000万人を超えています。市税収入は、政令市で唯一となる6年連続で過去最高を更新し、初めて3,000億円を超えました。元気で住みやすいまちとして国内外から高く評価されています。

成長が続く福岡市ですが、喚起された都市の需要に応えるためには都市機能が不十分で、「成長痛」ともいうべき多大な機会損失が発生しています。目に見えるかたちで進捗する「天神ビッグバン」や「ウォーターフロントネクスト」、さらには「博多コネクティッド」で都市の供給力を高めて「成長痛」を取り除き、福岡市をさらなる成長軌道に乗せていきたいと考えています。

また、地域経済をより力強いものにしていくためには、それを牽引する成長企業を生み出していくことが肝要です。スマートフォン一つで世界中の製品やサービスの利便を享受できるようになった今、世界では、最先端の技術やビジネスモデルを活用してこれまでにない便利な製品やサービスを提供し、グローバル企業へと急成長を遂げるスタートアップが次々に現れています。福岡市から成長するスター

トアップを生み出していくために、国家戦略特区という推進エンジンを最大限活用しながら、日本最大級の創業支援施設「FukuokaGrowthNext」を中心に新しい価値の創造にチャレンジする企業を支援していきます。

九大箱崎キャンパス跡地では、IoTを活用したこどもや高齢者の見守り、オンラインによる遠隔診療・服薬指導、ドローン配送や自動運転バスなど、急速に進む技術革新で市民の困りごとや社会課題を解決していく、未来志向のまちづくり「FukuokaSmartEAST」にチャレンジしていきます。約50haの広大なキャンパスに、住む人が快適に暮らせ幸せだと思えるような、未来に誇れるモデル都市を描いていきたいと考えています。

「天神ビッグバン」をはじめ、さまざまな福岡市のプロジェクトに、多くの市民や地域、団体、企業の皆様と一緒にチャレンジしていただいているおかげで、今まさに福岡市は次のステージへ上がろうとしています。「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指して、このオール福岡の一体感、勢いを止めることなく、福岡市を次のステージへと飛躍させるチャレンジ「FUKUOKANEXT」に引き続き全力を注いでまいります。そして、少子高齢化が進んでも持続的に発展していくまちのロールモデルを福岡から発信し、日本全体を変えていきたいと思います。

最後に、皆様の今年一年のご健勝とご活躍を心より祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

2020年 新年賀詞交歓会

(一社)福岡電業協会として恒例の「新年賀詞交歓会」が令和2年1月7日(火曜日)ソラリア西鉄ホテルにおいて開催された。

当日は来賓として、国土交通省九州地方整備局、経済産業省九州産業保安監督部、独立行政法人都市再生機構九州支社、福岡県、福岡県議会、福岡市、福岡市議会等から多数出席を頂き、正会員及び賛助会員もあわせて220名の参加を得ての開催であった。

主催者を代表して、宗久副会長より西村会長の挨拶文の代読があり、福岡地区における「天神ビックバン」「博多コネクティッド」「ウォーターフロントネクスト」など大型再開発計画の中、我々も忙しい日々が継続し、災害に対する電気インフラ対応や「人材確保・育成」「働き方改革」に対する福電協の取り組みを今年も継続するとの挨拶があった。

来賓を代表して、九州地方整備局 村山局長の代理として彌吉管轄調査官が、建設産業を取り巻く2つのキーワード「働き方改革」「担い手確保」の推進することが重要であり、「働き方改革」では生産性向上に向けて、BIMの活用をはじめ、i-Constructionの取り組みの拡大、週休2日工事の促進や施工時期の平準施策を進め、「担い手確保」について昨年6月に成立した、新・担い手3法の理念を踏まえ、建設産業が新3K（給与が良い、休日が取れる、希望が持てる）の業界になれる様に、九州各県・市町村と連携して取り組みを進めてまいります。皆様のご協力・ご理解が必要であり支援をお願いしますとの挨拶があった。

続いて福岡県小川知事の代理として商工部工業保安課 小齊平課長技術補佐が、県民の安全安心への

感心が高まる昨今、生活と産業を支える電気設備のはたす役割は重要かつ広範囲になっており、今後も高度化・多様化する社会ニーズに的確に対応することが求められています。電気設備工事に携わる皆様は、時代が求める新しい知識と技術の習得に努められ地域の皆様へ安全安心を提供頂ける様お願いいたしますとの祝辞であった。

最後に、福岡市高島市長の代理として、財政局アセットマネジメント推進部長尾課長より、「天神ビックバン」をはじめさまざまな福岡市のプロジェクトに、多くの市民や地域、団体、企業の皆様が一諸にチャレンジしていただけるおかげで、今まさに福岡市は次のステージへ上がろうとしています。「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指してこのオール福岡の一体感、勢いを止めることなく、福岡市を次のステージへと飛躍させるチャレンジ「FUKUOKA NEXT」を引き続き全力で注いで参りますとの新年の挨拶であった。

引き続き役所ごとに来賓紹介が行われ、経済産業省九州産業保安監督部新井部長の乾杯のご発声で祝宴となった。

会員各位がご来賓の皆様と新年の挨拶を行い会員相互の懇親を深め、和気あいあいとした雰囲気の中、新春の楽しいひと時を過ごした。

最後に、福岡電業協会島田副会長が皆様への御礼と、今年の50周年、来年の全国会員大会熊本開催の準備を進め、我々電気業界ワンチームとして「夢と生きがいのある電設業界」をキャッチフレーズで頑張りたいと挨拶し、万歳三唱を声高らかに執り行い盛会に終えた。

